

# 平成30年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

## I 自己評価

岐阜県立東濃フロンティア高等学校

学校番号

6507

1 学校教育目標	一人一人の個性を大切にし、主体的に生きる人間の育成に努める。 1 真理の探究・・・創造力豊かな自ら学ぶ生徒の育成 2 人格の陶冶・・・他を思いやる心豊かな生徒の育成 3 体力の増進・・・心身ともに健康でたくましい生徒の育成
2 現状の分析	三部制・単位制の特色を生かした「自ら選び、自ら学ぶ」「学び直しのできる」学校づくりに対しては、8割以上の保護者・生徒が肯定的に捉えている。また、「本校に入学してよかった」という生徒も8割を超えており、本校の学校運営の姿勢については概ね理解を得ている。 不登校経験を有する生徒に加え、発達障がい診断を受けている生徒（またはその疑いのある生徒）や外国にルーツを持つ生徒など、ますます多様な生徒が入学しており、生徒の基礎学力や規範意識とともに自己肯定感・自己有用感を養い、生きる力を身に付けさせることが求められている。
3 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な学習の定着を図り、学ぶ意欲を育て、生徒一人一人の進路実現を果たすこと。</li> <li>生徒に達成感や充実感、自己肯定感及び自己有用感を与える指導と支援を行うこと。</li> <li>生徒のソーシャルスキルを高めると共に幅広い社会性を養うこと。</li> </ul>
4 今年度の具体的な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎学力の育成…本校独自の教材や科目を活用し、少人数教育の特色を生かして、基礎学力の確実な定着を図る。</li> <li>社会性の涵養…ルールやマナーを順守する姿勢や、仲間とともに生きる力を育成する。</li> <li>キャリア支援の充実…「総合的な学習の時間」（CT）を通して、適切なキャリア教育を推進する。</li> </ul>

年 度 目 標			年 度 末 評 価			
5 評価項目 領域・分野	6 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	7 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	8 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	9 評価	10 成果と課題	11 総合 評価
教 務	①基礎・基本の定着と主体的な学習態度の育成をめざした学習指導の推進	①年2回の公開授業週間を利用し教材研究、教科会での振り返りによる授業改善 ①年2回「授業に関するアンケート」実施 ①調査情報分析（欠点者数の推移や再試結果等）	①協働的学習を取り入れたテーマをもとに年2回の公開授業週間を設定し、互いの授業を参観し合うことで、生徒理解や授業改善に繋げることができた。 ①基礎・基本の定着や進路実現に向けた家庭学習については、十分に推進を図ることができなかった。	B	▲学習支援という点で、継続的な働きかけを行う必要がある。学習指導一つ一つの意義を再度見直し、その意味を職員で共有していき、現生徒の実態に合わせ効果的に実施していきたい。 ▲授業については、履修条件を周知徹底することでマナーや取り組み状況について改善が見られた。安心して学べる学校になるべく、指導方法をさらに検討し改善を図らねばならない。 ▲業務の引き継ぎなど分掌内外でうまく連携をとり業務の負担軽減を図る必要がある。	B
	②特色と魅力ある三部制・単位制・少人数授業の効果的実践	②生徒及び保護者、公開授業参観者へのアンケート ②年2回「授業に関するアンケート」実施と分析	②保護者・公開授業参観者アンケートによると、本校の少人数授業や少人数クラスに対する期待や満足度は高く、その教育的な効果を実感する感想が多く寄せられた。 ②授業に関するアンケートでは、7月と12月に実施した。相対的に、生徒の授業への取り組み状況の改善が見られた。	A		
	③教員の資質を高める研修の推進	③教科会での現状分析 ③年2回の公開授業週間（他教科も参観する） ③年2回「授業に関するアンケート」実施と分析	③生徒情報を職員で共有することで、生徒理解を深め、より効果的な指導に繋げることができた。	B		

進路	①CT（チャレンジタイム）を活用してキャリア教育を実施する。	①生徒及び保護者等のアンケート	①1年次は進路ガイダンス、職業インタビュー、2年次はインターンシップ、企業・学校見学、面接指導、3年次はキャリアガイダンス、面接練習を実施した。	B	○3年次で実施したハローワークと連携した進路活動は好評であった。 ○キャリア教育アドバイザーによる丁寧な支援があった。 ▲3年次生の面接指導時の身だしなみや遅刻への指導が不十分であった。最低限のマナーや常識を身に付けさせたい。 ▲学年との連絡・連携に課題が残った。情報共有の機会を積極的に増やしたい。	B
	②生徒一人一人に合った適切な進学、就職指導を実施する。	②進路実現状況 ②就職内定率	②2年次生の全員に対し、2月に面接指導と面談を行い、進路希望や進路実現のための課題について話を聞いた。また、3年次生全員に対して、面接練習を行った。	A		
	③進路指導に関わる情報を収集し、教科・年次・分掌等へ発信することで学校と外部のパイプ役を務める。	③生徒及び保護者等のアンケート	③キャリア教育の全体計画及び年間指導計画を作成し、それに基づき各年次、分掌と連携し、キャリア教育を実践した。	B		
生徒指導	①基本的な生活習慣・規範意識の育成・社会生活の基盤である生活習慣の確立と、高校生として守るべきルールやマナーを理解し遵守する姿勢を育成する。また、身だしなみを整えさせる。	①生徒・保護者アンケート ①問題行動の状況 ①年次会等での情報共有	①機会あるごとに生活指導を実施した。校外指導（土岐市駅前）・校内指導も実施でき問題行動は減少傾向である。 ①身だしなみについては、金曜日の正装の日をこれまで以上に意識させ、担任からも声かけを多くした。また、場に応じて服装を考えることを集会等で声かけし、意識できる生徒も増えてきた。	B	○校内、校外とも問題行動の件数は減少し、生徒の規範意識は少しずつつ育っている。 ○正装の日に身だしなみを整えられる生徒が増えた。 ▲中学生のころから規則正しい生活ができない生徒も多く、時間厳守で行動ができない。 ▲中学生時代に不登校や保健室登校であった生徒が、生徒間でコミュニケーションがうまく図れず、人間関係を築くことができなかつたり、あるきっかけで再び不登校となつたり、進路変更をしたりするケースが見られた。 ○ボランティア活動や外部の取り組みに積極的な参加がみられた。 ○発達障がいと疑われるような生徒に対する対応のしかたについて、職員研修などを通し、全職員の共通理解と統一行動が図れた。	B
	②豊かな人間性の育成 ・内面からの変化を求め、自ら進んで取り組む事のできる自己指導能力の育成を図る。	②生徒・保護者アンケート ②問題行動の状況	②生徒会活動を活発化して、挨拶運動を展開させるなど、ルールやマナーアップを図れるよう仕向けることができた。生徒が自ら進んで行動できる姿も見られるようになってきた。	B		
	③全校体制と共通行動の確立 ・年次を中心とした指導体制の確立と、全職員の共通理解・統一行動を図る。	③年次会等での情報交換 ③企画委員会主事会、生徒指導委員会等での情報交換	③生徒の状況を管理職も含め、年次主任や担任、教育相談とスムーズに情報共有ができ、問題行動やいじめに発展するような事案について早期に対応し、未然防止に努めることができた。	A		
	④安心・安全な学校作り ・自分とは違う個性を認め、お互いを尊重できる生徒の育成を図ると共に、家庭や関係諸機関との連携を深め、安心・安全な学校づくりに努める。	④生徒の学校生活アンケート ④関係諸機関との連携	④毎日校内巡回指導を実施できた。 ④学校生活アンケートから問題や悩みを抱える生徒については、SCなどと連携して相談しやすい環境を作ることができ、安心・安全な学校づくりにつなげることができた。	B		

教育相談	①教育相談・特別支援教育活動の充実と、校内の援助支援体制を整える。	①担任と生徒との面談日の設定。 ①個別の支援計画・指導計画の作成。 ①生活アンケート調査の実施分析。	①春と秋の2回、担任と生徒との面談の設定を行うことができた。 ①中学より個別の支援計画を引き継いだ生徒について、作成することができた。また、必要と思われる生徒についても高校から作成することができた。 ①7月、10月、1月の3回にわたって生活アンケートを実施し、生徒がいじめについて悩んでいないかどうかの把握に努めた。結果分析を生徒個人単位で行い、結果を年次で共有し、速やかに対応を行った。	A	○個別の支援計画・指導計画の作成について、教科担に対象生徒の状況を聞き取り、作成することができた。 ○生活アンケートを年3回実施し、個人単位で結果分析を行った。具体的な実態把握ができた。 ○職員研修により生徒の立場からの支援に必要な知識・基本的な対応法を学ぶことができた。 ○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行うことにより、生徒に合った対策を取ることができた。	B
	②心理検査やアンケートを実施し生徒の状況を把握する。職員の資質の向上に向けた研修を実施する	②1年次でのテストバッテリーM2+検査の実施・分析。 ②生徒の困り感に関するアンケートの実施。 ②職員教育相談研修の実施 ②特別支援教育支援員との連携	②テストバッテリーM2+の分析結果について年次で情報を共有することができた。 ②8月に「生徒の個別ニーズをつかみ日常支援に活かすコツ」を演題に、職員研修会を実施した。 ②特別支援教育支援員を要請した生徒と個別の支援計画を作成した生徒の状況を各教科担に聞き取り、支援員と連携して効果的な支援ができるようにした。	B	○カウンセリング利用者の担任とカウンセラー、教育相談担当者とのコンサルテーションを行うことにより、生徒に合った対策を取ることができた。 ▲本人の苦手感によりカウンセリングが必要だと思われる生徒への実施ができない場合がある。紹介方法などを工夫したい。 ▲特別支援教育支援員を2名配置いただいているが、支援が必要な生徒が多く、すべての生徒への支援ができていない。 ▲いろいろな問題を抱えている生徒がいるので、すべての生徒への対応が難しい状況である。	
	③家庭や外部機関と連携・協力して、最も適切な支援ができる方策を考える。	③カウンセリングの実施 ③SCやSSWを交えたケース会議の実施。	③月1回の相談部だよりにより、カウンセリングの日程について周知できた。カウンセリング実施後は、カウンセラー・担任・関係職員とでコンサルテーションを行った。 ③SSWを交えたケース会議を行った。	B		
保健厚生	①健康の保持増進 ・こころと体の健康の保持増進に配慮し、規則正しい生活が送られるようにする。 ・安全で健康的な食について考えさせるとともに、食事のマナーを身に付けさせる。	①感染症発生状況 ①検査・検診結果 ①保健室利用状況データ ①体測定結果 ①食育アンケート ①食育指導	①毎月の保健だより発行に加え、換気・咳エチケット等の疾病予防の呼びかけを実施した。 ①健康診断未受診者0を目指し、指導・呼びかけを行った。(休退学除く) ①保健室利用者409件(昨年より-100人)全年次において肥満の割合が高い。 ①食育指導をテーマに保健だよりの発行や朔陵祭企画を実施した。 ①毎日の給食時間を利用し、食育・食事マナーを指導した。	B	▲感染者発生後の早期対応が今後の課題である。 ○健康診断未実施者0である。(休・退学者除く) ○授業中の保健室来室が減少した。欠席者の対応は、担任等と密に連携したい。 ▲運動不足の生徒が多い。食育と運動を呼びかけたい。 ○給食を通してコミュニケーションがとれた。 ○給食の時間に健康観察をおこなった。 ○準備運動や安全を配慮した	B
	②安全教育の充実 ・ルールやマナーを身に付けさせるとともに事故防止を図る。	②事故発生件数 ②傷害状況 ②医療費給付状況	②医療費申請昨年度12件→今年度4件 ②命を守る避難訓練を年3回にし、より実践的に行った。	A		

			第2回地震の避難訓練では防災減災教育講話を実施した。		取り組みをすることで、ケガが少なかった。 ○危機管理・防災意識の向上に向けて引き続き指導していきたい。 ○学校環境衛生優秀活動校に認定された。	
	③校内美化 ・学習に適した環境づくりを通して、美化意識の高揚に努めるとともに、全員で美しい学校をつくる。	③環境衛生検査結果 ③校内安全点検結果 ③生徒・職員へのアンケート	③教室換気の呼びかけができた。 ③定期的な安全点検・修繕により、より安全な教育環境が整備された。 ③教室の汚れ落とし、ワックスがけを実施した。	A		
	①生徒の健全育成のため、家庭や地域との連携を深める。	①育友会と生徒が一体となり取り組む諸活動。 ①安全振興会便りや、家庭向けリーフレットの配布。 ①本部役員によるあいさつ運動。	①本部役員を中心とした挨拶運動を、年合計9日間取り組んだ。生徒への声かけだけで無く、異なる部の生徒の実態を知ることができた。 ①地区理事校として、指導者研修会を運営し、地域のPTA組織との連携の軸として活動できた。	A	○「朔陵祭」など、多くの会員の方がボランティアとして参加して下さった。生徒会と連携をし、新メニュー導入を行うなど、他のセクションとの連携が積極的に行えた。	
	②学校行事や育友会行事の持ち方を考え、PR活動を積極的に展開する。	②朔陵祭バザーや展示企画への参加を通して、保護者同士の連携をはかる。 ②PTA活動の広報誌である朔陵だよりの充実。	②本部役員、母親委員、一般保護者、役員OBらが一体となり、両日で延べ70名程の参加があった。また、事前の打ち合わせに一般保護者も参加していただくようにし、PR活動の評価に役立てた。 ②生徒の学校行事の写真を多く配置し、ビジュアルに訴える、わかりやすい朔陵だよりの作成に取り組めた。	B	○育友会の広報誌が年2回発行され、生徒の生き生きとして活動する姿を会員に発信できた。 ○人と繋がることを意識したPTA活動をテーマにPTフォーラム活動に取り組み、その成果を発表することができた。	A
渉 外	③育友会組織の研究を進めるとともに、親子間や保護者間の心の交流が図れる諸活動を積極的に実践する。	③年間五回の育友会役員会を通して、育友会活動の展開を協議、実践していく。 ③PTフォーラムの活動に積極的に取り組む。	③本部役員会と母親委員会に分かれていた会議の形態を改め、同時開催にしより密接な取り組みが可能になった。 ③定時制高校のPTA活動の在り方にとり、文化祭を中心に独自企画を運営することができた。	A	○同窓会組織が自ら、効率的な組織運営が行えるようになってきた。ウェブ会議など、若い感性を活かした積極的な取り組みがなされるようになった。 ○保護者の校外進路研修会の参加者が年々減少傾向にあったが今年度は30名を超える参加があり、活気を取り戻した。 ▲本部役員の選考や、会議の持ち方など、保護者の負担を極力回避する組織運営が求められる。	
	④創立10周年を終え、同窓会の定期総会を開催できるよう進めていく。	④同窓会組織の効率的な運営と、学校行事への参加・連携の促進。	④同窓会組織の名称を変更するなど、同窓会役員の意識向上に務めることができた。 ④遠隔地の理事が会議に参加出来るように、理事会の様子をビデオチャット方式で配信するなどの工夫がなされた。 ④卒業生と語る会の講師として、理事を派遣するなど、学校行事への関わりを深めることができた。	A		
図書・情報	①図書資料の適切な選定と購入を進め、蔵書構成の充実を図る。	①生徒や教職員・各教科のリクエストを迅速に集計・対応。 ①話題の図書の情報収集	①「図書館だより」（毎月発行）「館報あざみ」（年2回）等を通じての図書啓発活動。内容面の一層の充実を図った。	A	【図書】 ○年間を通して通信等を利用した啓発活動ができた。 ○タイムリーな企画展示がで	

②「図書館だより」発行や館内展示の工夫により、生徒の図書館と読書への興味関心を高める。	②生徒や教職員の来館数・貸出冊数の集計、分析を適宜に行う。 ②校内読書感想文コンクール ②多読賞の表彰	②新刊・新着図書の紹介・案内 ②企画展示 ②「先生のおススメ本」紹介 ②「図書委員のおススメ本」紹介 ②読書感想文・多読賞の表彰	B	きた。 ▲昨年度よりも、図書の貸出冊数が減少した。 【情報】 ○職員の協力により、情報セキュリティの事故を起こすことなく1年間過ぎた。	A
③「朔陵祭」参加や芸術鑑賞会を通して芸術や文化に対する豊かな感性を育む。	③芸術鑑賞生徒アンケートの結果活用。	③図書委員会の活動 ③鑑賞作品のPRと生徒感想による振り返り	A		
④図書館システムの構築作業を円滑に進める。	④適宜、蔵書管理のPC化への移行状況をチェックする。	④通常業務と並行して、蔵書データをPC入力した。 ④図書の貸出・返却手続きが簡素化できた	A		
⑤職員セキュリティ・プライバシー・著作権等に関する意識の向上を図る。	⑤毎月のセキュリティ・チェックの実施し、不合格者には再試を課す。	⑤隔月のセキュリティ・チェックを実施した。 ⑤適宜、セキュリティポリシーの啓発活動を職員に対して行った。	A		

II 学校関係者評価 実施年月日：平成31年1月21日

・8割以上の生徒・保護者が「学校生活に満足している」と感じており、充実した教育が行われているようである。

・授業では細やかな配慮が行われており、生徒は幸せだと感じた。進路指導も充実しており、今後も現在のような教育を維持してもらいたい。

・授業において、生徒同士で教え合ったり、問題解決の方法を話し合う場面が見られた。これからはこのような学習をさらに広げてもらいたい。

・校外での生活について、交通機関における乗車マナー等も向上しており、指導が行き届いていると感じている。また、地域のイベントにも生徒がボランティアとして参加しており、イベントの運営だけでなく後片付けにも自主的に加わってくれる姿に、大変好感が持てた。

・「山の上」の学校であるため、地域の人たちが学校を訪れることもほとんどなく、は学校のことをあまり知らないのが残念である。

・大変充実した教育が行われているのだから、もっと「PR」に力を入れていくとよいのではないかと。地域のイベントや広報誌等で、もっと「東濃フロンティア」の名前をアピールするとよい。

12 来年度に向けての改善方策案

(教務) ・基礎基本の定着を目指した授業(ユニバーサルデザイン)の推進  
・生涯にわたる学びのメンタリティーの育成

(進路) ・多様化する生徒への個別支援の充実  
・個に応じた進路指導のさらなる充実

(生徒指導) ・キャリアガイダンスの充実と改善  
・インターンシップ(就職体験)の効果的な実施方法の研究  
・ネット犯罪・トラブルの防止と礼儀やマナーの改善(規範意識の高揚)

(教育相談) ・予防的生徒指導の研究と実践(積極的生徒指導の推進・さまざまな研修などへの積極的な参加)  
・SCによるカウンセリング利用の周知、保護者への積極的な啓発活動

(保健厚生) ・個別の支援計画の作成と教科担アンケートの有効活用  
・各種検診の事後処置の徹底  
・非常震災時に各自で速やかに行動できる実践力を高める  
・命を守る訓練を通じた人命尊重の教育

(渉外) ・PTA活動、同窓会活動の活性化と精選。

(図書・情報) ・図書館利用の活性化、図書貸出数の増加  
・ICTの有効利用